



史資料からみる

学習院

ヴァイニングと洗面台

女子中・高等科の応接室には、鏡のついた古い洗面台と、陶製の洗面器・水差しが置かれています。その由来は長い間忘れられていましたが、1974（昭和49）年に行われた旧女子部教職員による座談会記録に、野垣正子元教諭による証言が残されていました。

ミセス・ヴァイニングが来られた時は、一まあ、あの方は国賓待遇という感じで日本に来られたものですから一宮内省で大変気を遣われて、後に科長室になりました、赤煉瓦の小さな部屋ですが、その部屋に、本当に何年間も見た事の無かったような、立派なジュータンを敷き詰めて、テーブルだの椅子等宮内省からきれいなのを持ってこられて、家具を揃えました。その時の家具がそこ（女子部の会議室の一隅）にあります。鏡のついた台、そして水差しと花瓶と、その一式は、そのヴァイニングさんが来られた時に宮内省から届いたものです。（略）という事で、非常にこの学校には違う趣のある（笑）品物で…。

洗面台の扉の裏には「日光備付 二号一個 内廷掛」と記された貼り紙があり、日光御用邸（現日光田母沢御用邸記念公園）の備品が下賜されたものと推測されます。

ヴァイニング夫人（Elizabeth Gray Vining 1902～99）は、1946（昭和21）年に来日して皇太子殿下（現天皇陛下）の家庭教師をつとめ、学習院中等科および女子学習院（1947年4月より学習院女子中等科 女子高等科）でも英語の授業を担当しました。女子学習院は45年5月の空襲で青山の校舎を全焼し、46年4月、戸山の旧近衛騎兵連隊跡に移転、赤煉瓦造りの旧兵舎（現女子部B館・女子大学4号



E.G.ヴァイニング

館）を本館として授業を始めました。移転当初は学校としての体裁が全く整っておらず、ヴァイニングは教室について、「廊下との仕切りが腰の高さほどしかない、馬小屋か何かを想わせるものであつた。窓ガラスのはいつていない窓が多く、教室は暗くて隙間風がひゅうひゅうはいつて来、電燈もついていなかった。（略）秋が深まるにつれて、暖房装置のないコンクリートの建物は、一種独特の身にしみるような寒さで、むしろ戸外の方が実際暖いことが多かつた。」（『皇太子の窓』）と回想しています。



かつて授業の開始を知らせた鐘も、同時期に宮内省から下賜されたもので、現在もB館に寄り添うようにつり下げられています。洗面台とともに、苦しかった時代のことを忘れず、後世に伝えるためにも女子部で大切に保存していくべき歴史資料です。

（桑尾光太郎・学習院アーカイブズ）

（桑尾光太郎・学習院アーカイブズ）